

おばあちゃんのぶどう

種村 舞衣香

おじいくん、ぶどうをおくつてくれてありがとう。とてもあまくておいしくて、家庭で作ったものとは思えないものでした。わたしは、そ父の事を「おじいくん」とよんでいます。わたしがとても小さいころ、

「なぜ男の子なのに、おじいちゃんは『ちゃん』とつくの。男の子だから『おじいくん』だよ。」

と言ったそうです。なので、わたしはあえて、「おじいくん」とニックネームのようによんでいます。

わたしのそ父は、今、おか山で一人ぐらしをしています。そ母が二年前にがんでなくなつたからです。おなかがいたいと言つた時には、もう手おくれでした。そ母もわたしたちも、心のじゅんぴもできないままのかなしいわかれてした。ようやく、そ父も少し元気になって、ぶどうをそだててくれたと思ひました。

もともと、ぶどうをそだてていたのはそ母でした。そ母は、家庭さいえんがしゅ味で、野さいやくだ物をまごに食べさせたいとがんばつてそだててくれていました。

だから、そ父のおくつてくれたぶどうは、そ母を思ひ出させてくれました。そのせいか、よ計、おいしくかんじられました。

そ父にとつては、今年のぶどうは自しん作だつたようで、ぶどうがとどいた夜に電話をかけてきました。「どうだった？」

「とてもおいしかったよ。」

すると、そ父はとてもうれしがつてくれて、その後二回もぶどうをおくつてくれました。

れいぞうこは、そ父の思ひがまつたぶどうでうめつくされました。そ父が、あつち中、わたしたちまごの事を思ひながらそだててくれたんだと思つて食べています。

また、わたしは、そ母とはたつた六年しかいっしょにすごせなかつたから今も少しさみしいけれど、こうやつてそ父がそ母のぶどうをおくつてくれるなど、そ母の分まであいじょうをとどけてくれるから、とてもうれしく、かんしゃの氣持ちでいっぱいです。

「もう今年のぶどうはこれでおわりだよ。」

さいきん、もう一はこときました。あつち中、そだてるのは大へんだと思ひますが、おじいくん、来年もけんこうでいてね。もしよかつたら、ぶどうをおくつてください。とてもおいしいし、おばあちゃんの味も思ひ出させてくれるふしぎなぶどうです。

おじいくん、おばあちゃんの形見のぶどうをそだててくれて本当にありがとう。きっと、おばあちゃんも天国からよろこんでいることでしょう。